



KONICA MINOLTA

夏の星座解説

S-207 (07 分 00 秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

<p>(余裕があれば日没)</p> <p>・夕焼け</p>	0:15	<p>M 綺麗な音楽</p> <p>夏の星空を紹介しましょう。 夏は雄大に流れる天の川と、織姫や彦星の星たちや、南の地平線には、さそりの赤い星が目につきます。</p> <p>では、これから、辺りが暗くなるまで、しばらく待つことにいたしましょうね！</p> <p>(音楽盛り上がる)</p> <p>(音楽を約1分聴く)</p>
<p>(だんだん星空へ)</p>	0:36	<p>(音楽盛り上がる)</p> <p>(音楽を約1分聴く)</p>
<p>(満天の星空)</p>	1:36	<p>(音楽 区切りよく終わる)</p>

・方位

1:45

夏の星たちが出揃いました。
では、初めに南の地平線近くを見てください。

M 音楽 やさしく始まる

P アンタレス

1:52

ここに、赤い色をした明るい星が見えます。
西洋では、火星と同じように赤く光ることから「火星の敵」という意味のある「アンタレス」と呼びました。
それが、この星の名前です。

・さそり線

・さそり座

2:34

「アンタレス」と辺りの星を結んでみると、アルファベットの「S」の字のような並びになります。または、魚釣りに使う釣り針みたいな形ですね。
この並びが「さそり座」です。
「アンタレス」はちょうど蠍の心臓の辺りに光っています。

・いて座

2:37

この「さそり座」の隣には上半身は人間、下半身は馬の姿という「いて座」があります。
構えた矢は蠍を狙っていますね。まるで蠍が暴れないように、見張っているみたいです。

2:54

(音楽変わる)

P ベガ

3:04

今度は頭の上のほうを見てください。
ここに明るい星が見えますね。
この星は一等星の「ベガ」
「いて座」の星になります。

・りゅう座

3:18

琴といっても星空に描かれているのは、小さな竖琴です。
琴の演奏名人、オルフェウスという人の琴が天に昇って星座になったと、ギリシャ神話は伝えています。

3:21

3:36

「こと座」から少し目を低いところに移すと、そこには鷺が勇ましく飛ぶ姿を描いた「わし座」があります。

・わし座

3:45

この鷺はギリシヤ神話に登場する神様の中で、一番偉い大神ゼウスが変身した姿だと言われています。

Pアルタイル

3:48

「わし座」の中に見える明るい星は、一等星の「アルタイル」。

実はこの星、日本では古くから「彦星」として親しまれてきました。

Pベガ

4:18

では「織姫星」は、どこかというと、先ほど紹介した「こと座」の「ベガ」。この星です。

4:21

二つの星の間には、夏の天の川が見えています。淡い光の帯が、頭の上近くから南の地平線に続いています。

この天の川、もちろん水が流れているわけではありません。その正体は星の集まり。沢山の星が集まって、ごらんのような光の帯びになっているのですよ。

4:49

(音楽 この辺で終わる)

さて、その天の川の中に、明るい星を一つ見つけることが出来ます。

Pデネブ

4:54

一等星の「デネブ」。

「デネブ」は「尻尾」とか「おしり」という意味があります。

「デネブ」とその周辺の星を繋げてみると、ほら、十字の形に星が並んでいますね。

・北十字線

・はくちよう座

5:24

これを羽を広げて空を飛ぶ白鳥の姿に見立てました。
「はくちよう座」です。

5:27

それでは「デネブ」はどこに光ってますか？
そう、白鳥の尻尾辺りに輝いています。だから「おしり」という意味の「デ、ネ、ブ」という名前が、この星にはついています。

5:45

M エンディング音楽

P デネブ

5:53

さあ、今、紹介した「デネブ」。
そして「こと座」の「ベガ」、「織姫星」。

P ベガ

P アルタイル

最後に「わし座」の「アルタイル」、「彦星」を結んでみましょう。

大きな三角形が出来上がります。

・夏の大三角線

これを「夏の三角形」と言います。

6:21

夏の星座を探すときの目印になりますから、覚えておきましょう。

夏は一年のなかでも、もつとも気軽な服装で星空を楽しむことが出来ます。

6:36

今度は本当の星空で、今、紹介した星たちを見つけてみてくださいね。

7:00

おわり